

平成5年度（1993年度）

# 日田市埋蔵文化財年報

平成5年度日田市埋蔵文化財年報



日田市教育委員会



## 発刊にあたって

平成5年度に市内で行われた発掘調査件数は16件にも達しました。この数字は過去、日田市内で行われた調査件数のなかでは最も多い数字です。公共・民間問わずにその数は年々増加の一途をたどっていて、今後さらに増加する勢いです。

こうしたなか、平成5年度に行われた発掘調査では県・市教委の調査に関係なく、各遺跡では多くの新しい事実が判明すると同時に、数多くのすばらしい遺品が出土し、日田市の歴史を考える上で重要な成果が上がっています。

また、去年は装飾古墳でありますガランドヤ古墳が国の史跡指定を受けることができ、誠に喜ばしい限りです。さらに、小迫辻原遺跡に関しては官民一体となったシンポジウムや展示会などが開催され、広く遺跡の理解につとめることができました。

最後に、こうした埋蔵文化財調査や普及活動などにあたって、ご指導やご支援をいただきました多くの関係者の皆様方に感謝を申し上げます次第です。

平成7年3月

日田市教育委員会

教育長 加藤正俊

## 例 言

- 1、本書は平成5年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、また、本書には大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も合わせて掲載している。
- 3、発掘調査等の資料については、日田市立博物館および文化財資料室にて保管している。
- 4、受領図書は平成5年4月1日から平成6年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。この受領図書一覧表の作成にあたっては小野敦氏の手をわずらわせた。
- 5、表・裏表紙の写真は徳瀬遺跡の発掘調査地の空中写真と同遺跡で発見された箱式石棺墓（左側の箱式石棺墓からは位子三公鏡片が出土している。）である。
- 6、なお、本書の執筆は担当者が分担して行い、編集は土居和幸、行時志郎、松下桂子が行った。

## 目 次

### 発刊にあたって

I	平成5年度埋蔵文化財調査事業	1
	1) 平成5年度の埋蔵文化財調査の概要	1
	2) 発掘調査・確認調査の概要	4
	3) 試掘調査・立会調査の概要	14
II	平成5年度埋蔵文化財普及・啓発事業	30
	1) シンポジウムの開催	30
	2) 特別展の開催	32
	3) 指定文化財の紹介	34
	4) 広報活動	36
	5) 刊行物の紹介	38
III	平成5年度埋蔵文化財関係寄贈図書一覧	39

# I 平成5年度埋蔵文化財調査事業

## 1) 平成5年度の埋蔵文化財調査の概要

平成5年度に日田市内で行われた発掘調査等の件数は別表に示すとおり延34件におよんだ。このうち市教委が実施した発掘調査・確認調査の件数は5件、試掘調査・立会調査は16件であった。試掘調査・立会調査については埋蔵文化財の有無に関する申請21件のうち、周知遺跡やその隣接地にあたる箇所を対象としたもので、公共事業に関わる分が14件、民間開発が7件である。公共事業の場合は従来より目立つのが農道や市道などの道路建設がであり、次に市街地周辺で行われる圃場整備事業が目立つ。一方、近年増加傾向にあるのが民間開発による住宅建設である。申請を含めると7件にもおよんでいる。こうした道路建設や民間住宅開発は、九州横断道路開通やバイパスの開通とも大きな関係があると考えられ、調査機会が今後さらに増すものと予想される。

また大分県教委の市内での発掘調査は、昭和58年度より進められてきた九州横断自動車道建設に伴う発掘調査と、国道210号線バイパス建設工事に伴う発掘調査が上に行われており、その数もピークに達しようとしている。このように平成5年度中に行われた市内での発掘調査等の件数は過去最高におよんだ。

こうした調査により今年度も数多くの考古学的な成果が上がっている。まず、市教委の調査では徳瀬遺跡において弥生時代前期から古墳時代前期の集落・墓地遺構が発掘され、古墳時代前期の箱式石棺墓からは市内では初めてとなる中国後漢鏡である「位子三公鏡」の破片が出土している。また求来里平島遺跡の調査では5世紀後半の集落跡の調査が行われ、市内にあつてこれまで不明であった当該期の集落の様子的一端が判明している。さらに10年目を迎えた小迫辻原遺跡の発掘調査では環濠の追跡確認が行われ、1～3号環濠が台地上で巡ることなどの成果が上がっている。

発掘調査ラッシュであった県教委の調査では注目される遺跡や遺物の発見が数多く見られた。まず、手崎遺跡の調査では縄文時代から中・近世にいたる複合遺跡であることが確認され、とくに縄文時代後期の竪穴住居の発見は市内でも初めての事例となり、今後日田市の当該期の研究の基礎となる資料となった。継続して行われた後迫遺跡では弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居97棟や多数の土坑が発掘され、市内でも最大級の弥生集落であることが判明した。なかでも、集落内には粘土採掘坑と考えられる土坑も発見されるなど、集落の在り方を考える上で貴重な資料を提供した。また有田塚ヶ原古墳・尾漕古墳・夕田古墳・佐寺横穴墓・夕田横穴墓群と古墳時代の墳墓の調査もこれまで例をみないほど実施された。3基の古墳の調査はこれまで市内では古墳の調査例が少ないことから、今後この分野での考古学的な進展が望まれるであろう。一方、横穴墓の調査では夕田横穴墓群において、5世紀後半の横穴墓が発見された。初現期の横穴墓の一例として注目に値する。

日田市教育委員会

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査・確認調査)						
1	求来里平島遺跡A地点	大字求来里字平島	農道建設	400㎡	930512~930721	
2	小迫辻原遺跡	大字小迫字辻原	遺跡の範囲確認	3.133㎡	930824~940330	
3	徳瀬遺跡B区	大字友田字徳瀬	市道建設	600㎡	931011~940210	
4	求来里平島遺跡B地点	大字求来里字平島	農道建設	130㎡	940214~940222	
5	赤迫遺跡E・F地点	大字北豆田字赤迫	運動公園建設	3,500㎡	940224~940330	
(発掘調査・立ち会い調査)						
6	東寺横穴墓群	大字日高字東寺	市道建設	30㎡	930511~930513	
7	市ノ瀬遺跡	大字花月字井手ノ瀬	圃場整備	100㎡	930622~930708	
8	中釣遺跡	大字羽田字中釣	圃場整備	110㎡	930625~930709	
9	古賀原地区	大字小野字古賀原	圃場整備	100㎡	930713~930721	
10	三和教田遺跡A地点	大字三和字教田	住宅造成	100㎡	930811	次年度に発掘調査
11	内河野地区	大字内河野字花ノ木瀬	住宅造成	500㎡	930824	
12	日田糸里丸ノ内地区	大字波里字上瀬井手	市営住宅造成	100㎡	930902	
13	赤迫遺跡	大字北豆田字赤迫	運動公園建設	1,500㎡	930916~930927	引き続き発掘調査
14	上野切畑山遺跡	大字上野字切畑山	市道建設	15㎡	931124~931126	
15	穴原遺跡	大字友田字旭原	貯木場造成	140㎡	931215~931224	
16	日田糸里一丁田地区	大字南豆田字一丁田	住宅造成	30㎡	940110	
17	町野原遺跡	大字求来里字町野原	農道建設	15㎡	940307	
18	牧原遺跡	大字日高字牧原	農道建設	150㎡	940315~940322	次年度に発掘調査
19	日田糸里上瀬井手地区	大字波里字上瀬井手	店舗建設	110㎡	940318	
20	三和教田遺跡B地点	大字三和字帖町	住宅造成	40㎡	940330	次年度に発掘調査
21	古金遺跡	大字日高字古金	住宅造成	260㎡	940331	

大分県教育委員会

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘調査・確認調査)						
1	後迫遺跡	大字波里字後迫	高速道路建設	17,000㎡	930406~931110	
2	有田塚ヶ原古墳群	大字有田字塚ヶ原	高速道路建設	500㎡	930406~930716	
3	上野第1遺跡平原・米田地区	大字上野字平原・米田	バイパス建設	2,000㎡	930422~930731	
4	佐寺横穴墓群	大字有田字佐寺	高速道路建設	5,100㎡	930426~940216	
5	夕田古墳	大字有田字夕田	高速道路建設	2,400㎡	930426~931006	
6	夕田横穴墓群	大字有田字夕田	高速道路建設	1,050㎡	930426~940216	
7	尾漕遺跡B・C地点	大字有田字尾漕高	速道路建設	10,000㎡	930610~930907	
8	手崎遺跡	大字高瀬字手崎	バイパス建設	930㎡	930713~931226	
9	佐寺原遺跡	大字有田字佐寺原	試験棟建設	900㎡	931101~931110	
10	日田糸里遺跡	大字三和字反田ほか	高速道路建設	200㎡	931115~931203	
11	穴観音古墳	大字内河野字倉園	遺跡確認	500㎡	940106~940114	
(試掘調査・立ち会い調査)						
12	上野第2遺跡	大字上野字向原	バイパス建設	2,000㎡	930422~930731	
13	羽野横穴墓群	大字三和字城ノ脇	高速道路建設	1,250㎡	9310~9311	



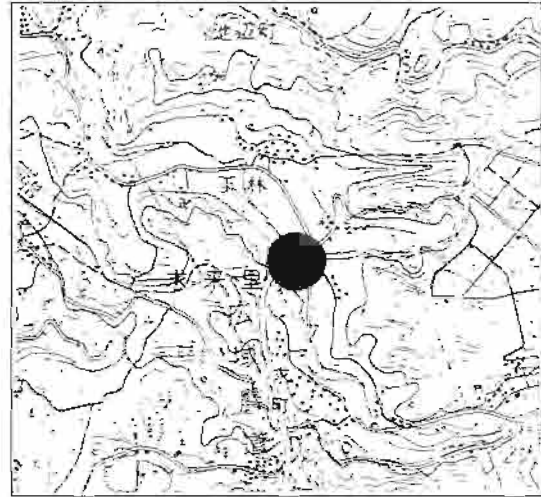
平成5年度日田市内埋蔵文化財調査位置図(1/50,000) ●市教育委員会 ■県教育委員会

## 2) 発掘調査・確認調査の概要

—広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査—

### 1 求来里平島遺跡A地点 (KKH)

所在地 大字求来里字平島1731ほか  
調査期間 930512~930721  
開発面積 約18,000㎡  
調査面積 約400㎡  
調査費 3,481千円(原因者負担)  
調査年次 2年次  
遺跡の時代 縄文・古墳  
遺跡の内容 集落  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

#### 遺跡の位置

日田盆地東部の求来里川沿いに細長く開けた谷状沖積地の微高地上に存在する。遺跡周辺には東部に町野原遺跡、西部に元宮遺跡といった周知遺跡が存在し、町野原台地の緩斜面上には求来里平島遺跡を見下ろすような位置に横穴式石室を内部主体とした古墳が1基存在している。

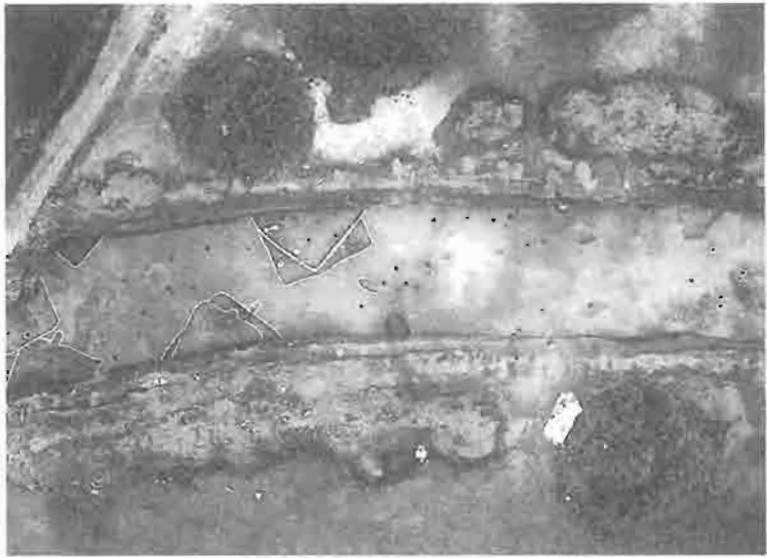
#### 調査の概要

調査は道路建設範囲の表上を除去した後、遺構検出作業を行った。その結果、縄文時代晩期の土坑1基のほか、古墳時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が6軒、および土坑1基が確認された。

縄文時代の土坑は不定形の形を呈し、内部からは浅鉢・深鉢型の土器のほか、打製石斧が数点出土している。また、この時期の遺物として竪穴住居跡から碧玉製管玉が1点出土している。古墳時代の竪穴住居跡はいずれも内部に竈を造りつけており、凝灰岩の石材を竈の袖石として使用している。支柱穴はすべて4本であり、住居跡の平面形はほぼ方形となっている。住居跡内からは多くの土器が出土したが、その大半は土師器の甕であった。須恵器も少量出土したが、そのうちの1点は器台の胴部のみを打ち欠いて甕を置く台(器台)に転用していた。土師器の中にも甕の胴部を打ち欠き、残った口縁部を利用して器台としたものが2,3出土している。

#### まとめ

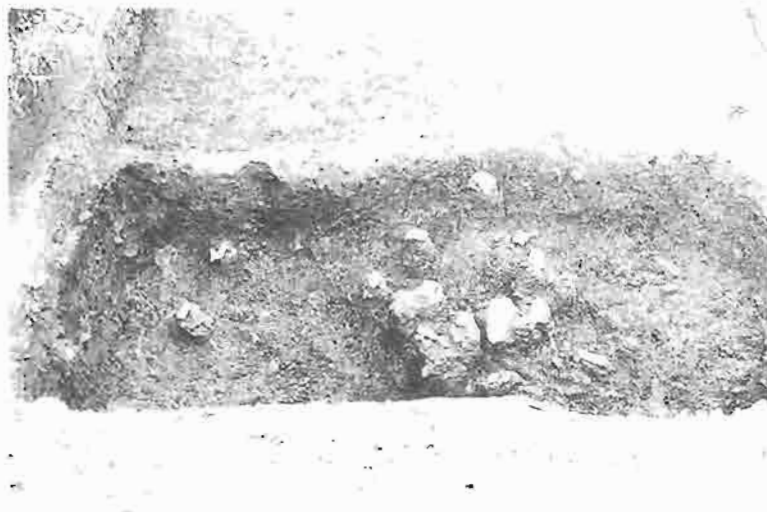
今回の調査で求来里川沿いの沖積地上にも5世紀には集落が展開していたことが明らかとなった。また須恵器の器台は5世紀後半頃と考えられ、市内出土の須恵器では最古に属する時期であり、このころより須恵器は日田盆地内に急速に広がっていったことが予想される。



遺跡全景



豎穴住居跡遺物出土狀況



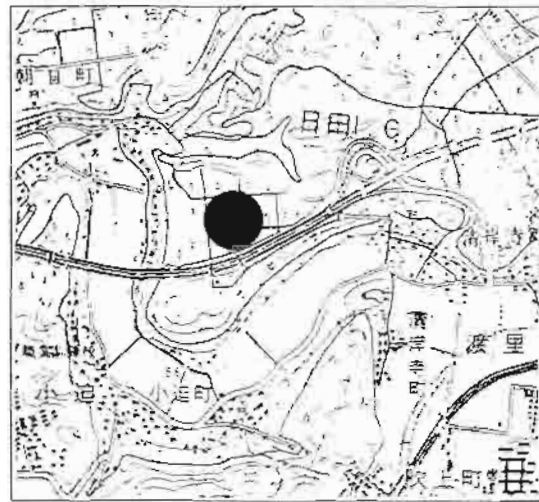
土坑遺物出土狀況



おぞこつしばる  
2 小迫辻原遺跡 (OZT)

—遺跡の範囲確認のための発掘調査—

所在地 大字小迫字辻原1230ほか  
調査期間 930824~940330  
開発面積 ——  
調査面積 約3,133㎡  
調査費 10,151千円(国庫補助)  
調査年次 7年次  
遺跡の時代 旧石器~近世  
遺跡の内容 集落・墓地  
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

7年目を向えた小迫辻原遺跡の調査は、その最終調査年度として様相が不明確であった古墳時代前期初めの1~3号環濠の追跡確認を主目的に実施した。これまで遺跡内の畑地を中心に調査を行ってきたが、今回は台地西側縁辺部がその対象となった。調査では機械が使えないことから、トレンチを設定し確認に努めた。各調査区で検出した遺構、出土した遺物は次のとおりである。

- (遺構) G 区/袋状貯蔵穴数基、土壇数基、溝2条(うち1条は1号環濠)、  
穴住居3棟、建物?2棟など  
H-3区/竪穴住居4棟、土壇4基、溝4条、建物数棟  
J 区/溝1条(2号環濠)  
I・L区/土壇数基

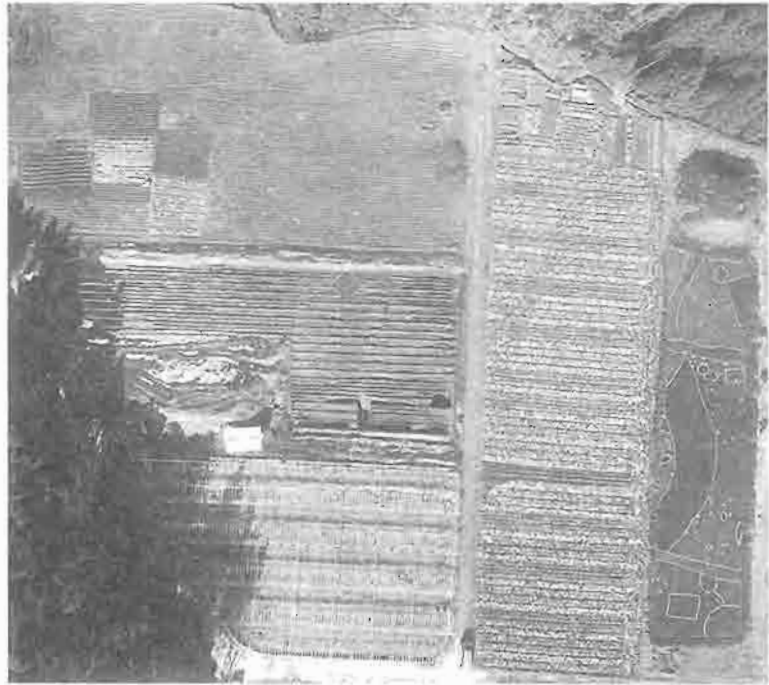
- (遺物) 弥生時代/土器(甕・壺など)、石庖丁などの石器  
古墳時代/土器(甕・壺・高坏・碗など)、鉄鏃など  
中世/龍泉窯青磁、白磁、土師器、播鉢など

### まとめ

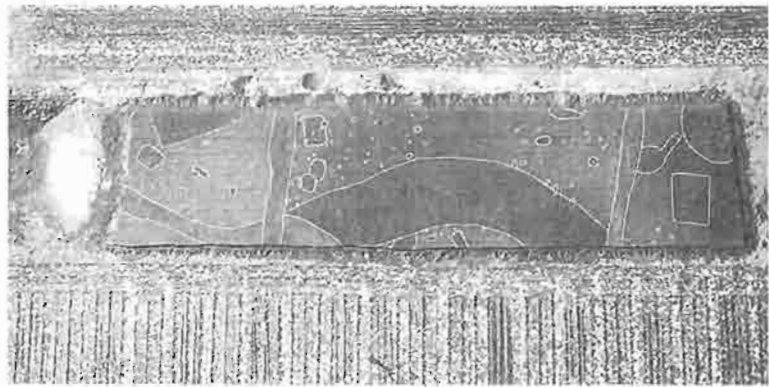
今回の確認調査では、①1号環濠が台地の地形に沿って巡る可能性が高く、その内部には竪穴住居が伴うことが確認できた。②2号環濠も台地縁辺部に沿って巡ることが確認できた。③3号環濠においても台地縁辺部に沿って巡ることが確認できた。などの成果が上げられる。こうした点から、これまで不明瞭であった3つの環濠の実態に迫ることができた。



小迫辻原遺跡の空中写真



G・H区の空中写真

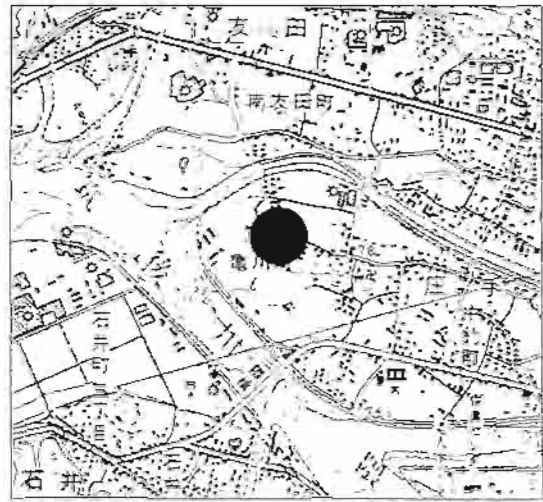


H区の空中写真

### とくせ 3 徳瀬遺跡B区 (TKZ)

—市道亀川山田線道路建設工事に伴う発掘調査—

所在地 大字友田字徳瀬256ほか  
調査期間 931011~940210  
開発面積 5,556㎡  
調査面積 約600㎡  
調査費 5,668千円(原因者負担)  
調査年次 3年次  
遺跡の時代 弥生・古墳  
遺跡の内容 集落・墓地  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

#### 遺跡の位置

遺跡は日田盆地西部、三隈川と庄手川に挟まれた中洲の微高地上に存在している。平成4年度の調査では微高地南部の低位沖積地では河川の氾濫等により遺構は確認されていないものの、微高地上では弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や石棺墓の存在が確認されていた。

#### 調査の概要

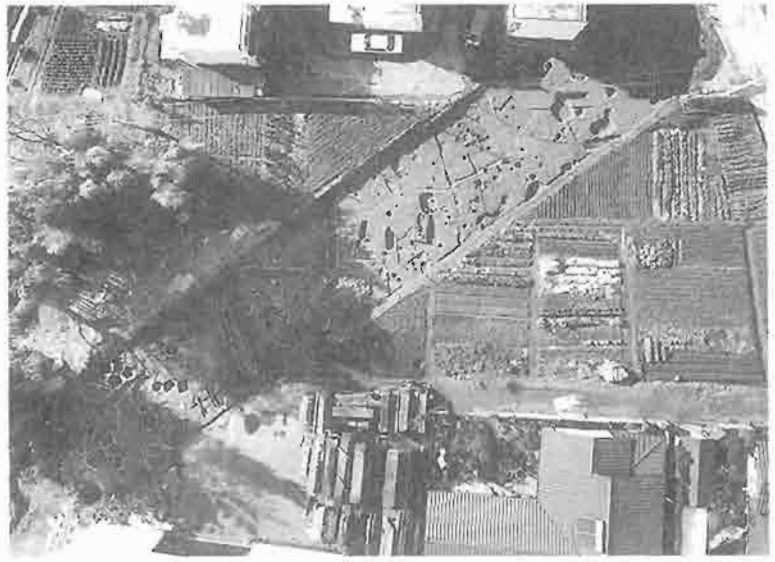
調査は機械による表土剥ぎ作業を行った後、遺構検出作業を行った。その結果、弥生時代前期から古墳時代前期にかけてまでの遺構が重複しており、日田盆地では数少ないこの時期の沖積地での集落遺跡であることが判明した。

弥生時代前・中期の遺構はとくに調査区南部に集中し、円形竪穴住居跡3軒の他、貯蔵穴を含む計56基の土坑が確認された。また後期終末から古墳時代前期初頭にかけては方形竪穴住居跡が10軒確認されたほか、調査区南部では環濠の可能性のある大溝が1条確認されている。大溝は確認面の幅約2m、深さ約1.5m、断面形は溝の北側をほぼ垂直に立ち上げた変形の「V」字形を呈し、長さ5m+αを測る。

古墳時代前期前半頃になると、生活遺構はなくなり墓地へと変化する。この中には石棺墓7基(うち方形周溝墓の主体部となるもの3基)、土壙墓6基などが確認された。

#### まとめ

弥生時代において台地上ではなく盆地の中心部に前期から継続して集落を立地する例は少なく、その特異性が注目される。また須玖式土器の占める割合が高いこと、鑄造鉄斧片の再利用鉄器の可能性のある小鉄片が約20点出土し鉄器の出土量が豊富なことなどもこの遺跡の性格を考える上で興味深い。石棺墓内より出土した鏡片は径が約7.8cmと小さく外区の部分しかないもののその大きさなどから位至三公鏡と考えられる。



遺跡全景



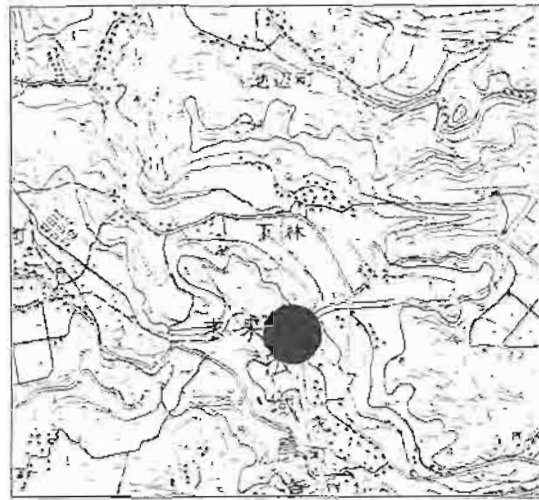
石棺墓完掘狀況



石棺墓内鏡片出土狀況

くくりひらしま  
4 求来里平島遺跡B地点 (KKH) 一広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査一

所在地 大字求来里字平島1787ほか  
調査期間 940214～940222  
開発面積 約400㎡  
調査面積 約130㎡  
調査費 1,255千円(原因者負担)  
調査年次 1年次  
遺跡の時代 縄文時代・古墳時代  
遺跡の内容 集落  
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

#### 遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部、求来里川左岸の標高約136mの丘陵先端部に位置する。今回調査を行ったB地点は、その丘陵先端の狭い平坦な場所にあたる。求来里川を挟んだ対岸には求来里平島A地点や町野原遺跡が存在し、周辺の台地や丘陵尾根上には円墳が点在している。

#### 調査の概要

調査では農道建設予定地に機械を入れ、丘陵先端部と谷部の2ヶ所を調査地点とした。検出した遺構は縄文時代晩期と考えられる土坑1基、古墳時代中期の竪穴住居2棟、土坑1基、柵列?1などである。このうち古墳時代中期の竪穴住居2棟は1号が一辺4.2mの方形、2号は6.2m×3m+αの規模である。なかでも1号竪穴住居の南東隅にはカマドが付設されていた。遺物としては縄文時代晩期の深鉢や石器、竪穴住居からは土師器の甕・碗・高坏などが出土している。

#### まとめ

前年に行われた求来里平島遺跡A地点においても、縄文時代晩期と古墳時代中期の遺構が確認されており、遺跡が求来里川を中心に広がっていることが判明した。とくに、B地点での1号竪穴住居でのカマドは住居の隅に付設されている点は、市内でも古式のカマド事例として注目される。

求来里平島遺跡B地点空中写真



1号竪穴住居



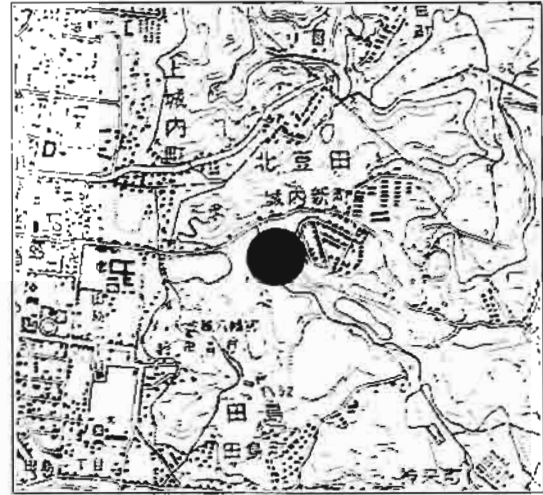
1号竪穴住居のカマド



あかさこ  
5 赤迫遺跡E・F地点 (AKS)

—大原総合運動公園整備事業に伴う発掘調査—

所在地 大字北豆田字赤迫1717-1ほか  
調査期間 940224～940330  
開発面積 約90,000㎡  
調査面積 約3,500㎡  
調査費 4,560千円(原因者負担)  
調査年次 1年次  
遺跡の時代 古墳・中世  
遺跡の内容 集落・墓地  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 遺跡の位置

遺跡は田盆地東部、中尾原台地南端付近より派生する舌状に延びる尾根上とその眼下に細長く形成された谷状沖積地一帯に存在している。

試掘調査の結果、A～Fまでの6地点において遺構が確認されたが、このうち上事を急ぐE・F地点については今年度中に発掘調査を開始することとなった。

E地点は標高130mの尾根上にある。南より谷に向かって緩やかに延びる尾根の鞍部に石蓋土墳墓が1基のみ確認された。土墳墓の規模は幅約15cm、長さ約50cm、深さ約50cmと小さく、墓坑の上にのせた蓋石は約1mの大きさの安山岩の扁平な割石であった。

F地点は標高115mの谷筋最上部にある。ここでは凝灰岩の岩盤の上に数個の柱穴とそれよりやや下った位置から上部は意図的に掘削したような痕跡が残るため池状遺構が1基確認された。この中からはわずかに土師器が出土したものの時期については不明であるが、この上の包含層より数点底部糸切り痕の残る土師質土器が出土していることからこの遺構の築造時期は中世以前にさかのぼると考えられる。

### まとめ

BE地点は丘陵より沖積地の広がる北部に向かって舌状に張り出す尾根上であり、試掘調査時点で確認された1基の石蓋土墳墓は群集墓の一つとして周辺にも同様の遺構が多数存在するものと考えられていた。しかし尾根上全体の表土を剥いた結果、そこに存在する墓は1基のみであるが、盛り土や周溝も確認されないことから、古墳の可能性はきわめて薄いと考えられる。

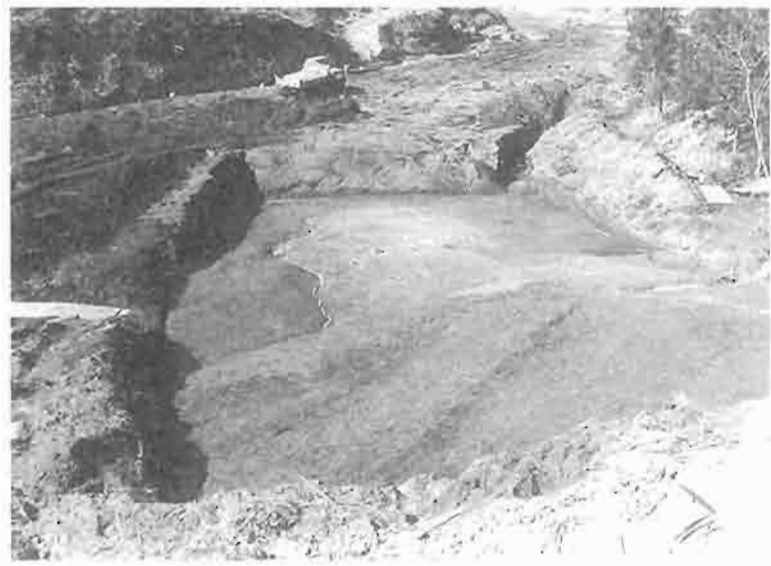
またF地点のため池状遺構は中世以前の水田開発と関連するものと推測される。



E地点石蓋土壙墓完掘状況



E地点石蓋土壙墓完掘状況



F地点遺構検出状況

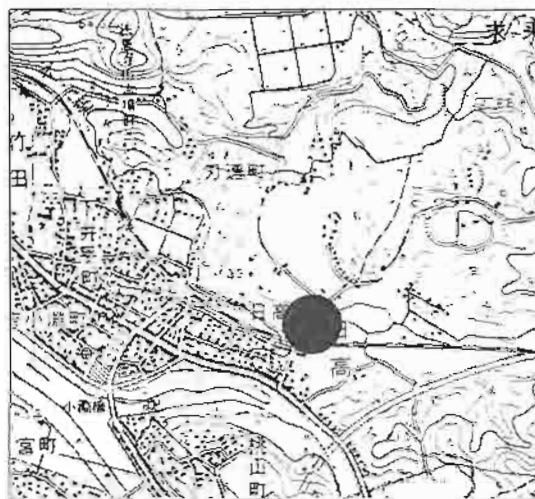


### 3) 試掘調査・立会調査の概要

—市道古金線道路改良工事に伴う試掘調査—

#### とうじ 6 東寺横穴墓群

所在地 大字日高字東寺  
調査期間 930511～930513  
開発面積 約2,500㎡  
調査面積 約30㎡  
調査費 96千円(国庫補助)  
遺跡の時代 古墳時代  
遺跡の種類 墓地  
担当者 上居初幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

#### 調査の概要

遺跡は日田盆地東部の標高約120mの丘陵の崖面に位置する。丘陵は上面観が「し」字状をなし、横穴墓群はその南側の崖面を中心に分布している。この横穴墓群はこれまでに本格的な調査が実施されておらず内容は不明な点が多いが、これまでに開口した横穴墓から須恵器や鉄刀などの遺物が採取された例もあり、その年代は6世紀～7世紀と考えられている。横穴墓は少なくとも3段以上の構築と考えられ、その数は百基を越すとされる。また、この横穴墓群の一角は金銀錯嵌珠籠文鉄鏡が出土したと伝えられるダンワラ古墳の比定地にあたる。

今回の調査対象地区はこの横穴墓群の西側の端にあたる。調査は横穴墓の存在を考えて、崖面やテラスと想定される場所を中心にトレンチを設定しその確認を行ったが、遺物の出土はなく、また横穴墓の存在は確認できなかった。



東寺横穴墓群近景

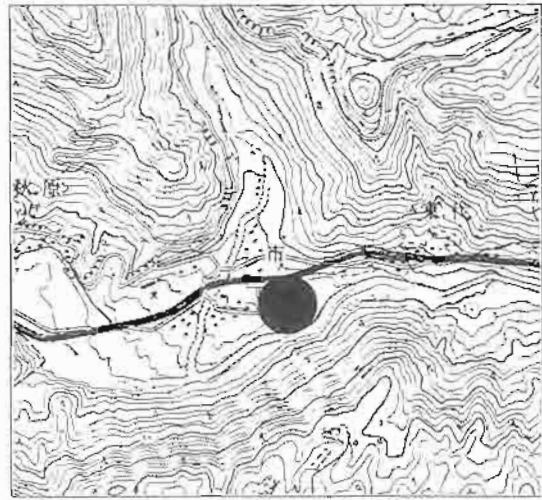


試掘調査作業風景

## 7 市ノ瀬遺跡

— 泉宮圃場整備事業（市ノ瀬地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字花月字井手ノ鶴1889-3ほか  
調査期間 930622～930708  
開発面積 80,000㎡  
調査面積 100㎡  
調査費 199千円（国庫補助）  
遺跡の時代 中世  
遺跡の種類 —  
担当者 上居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は日田盆地北部の市ノ瀬川と花月川の合流地点にあたる市ノ瀬川右岸の標高約170mの段丘上に位置する。遺跡の周囲は標高約500m前後を測る山々が迫り、深く狭い谷を形成している。これまでのところこの遺跡の周辺では他に遺跡の確認例はなく、遺跡の近くに江戸時代の日田永山布政所と四日市陣屋を結ぶ代官道路の名残としての石畳道が残っている程度である。

調査では圃場整備事業予定地内にトレンチを設定して遺構の確認を行った。各試掘坑の掘り下げの結果は、水田から拳大から大きなものでは1mを越えるような河原石が砂層に混じってみられた。このため遺構は存在せず、遺物として中・近世の播鉢や皿の土器片が出土した程度である。

この遺跡の調査は前年の調査箇所の上流にあたり、前年の調査結果と同様にこの遺跡の大半は市ノ瀬川と花月川の氾濫源にあたると思われる。



試掘調査作業風景



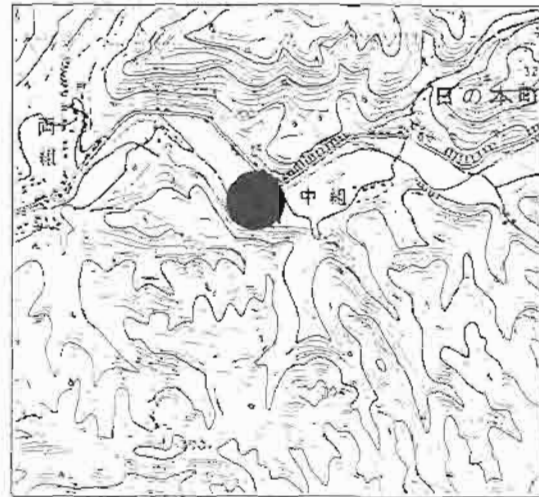
トレンチ完掘状況

## 8 中釣遺跡

なかつる

—中組地区団体営土地改良総合整備事業に伴う試掘調査—

所在地 大字羽田字中釣2,161 ほか  
調査期間 930625～930709  
開発面積 約125,000㎡  
調査面積 約110㎡  
調査費 106千円(国庫補助)  
遺跡の時代 ———  
遺跡の種類 ———  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は日田市東部の標高180mを測る谷あいにある。蛇行する有田川と山際の間には狭いながらも沖積地が三角形に広がり、現在はそれを階段上に整えて水出としている。

調査は中組地区圃場整備予定地内の対象面積約125,000㎡の中に11ヶ所のトレンチを設定した。トレンチはいずれも表土を除去した後は砂礫層となり、河川の氾濫による堆積層の上に水田を営んでいたことが確認された。遺構についてはすべてのトレンチで確認することができなかった。しかし遺物については、河川に近い位置に設定したトレンチの砂層の中から口縁部付近に穿孔が施した縄文時代早期の楕円押型文土器が1点出土した。

調査の結果、中釣遺跡においては遺構の存在しないことが確認された。しかし、遺跡から縄文土器が出土したことや周辺にも縄文時代の土器や石器が多数出土した高花遺跡などの周知遺跡も存在することから、今後もさらに周辺の確認調査が必要と考えられる。



試掘調査作業風景

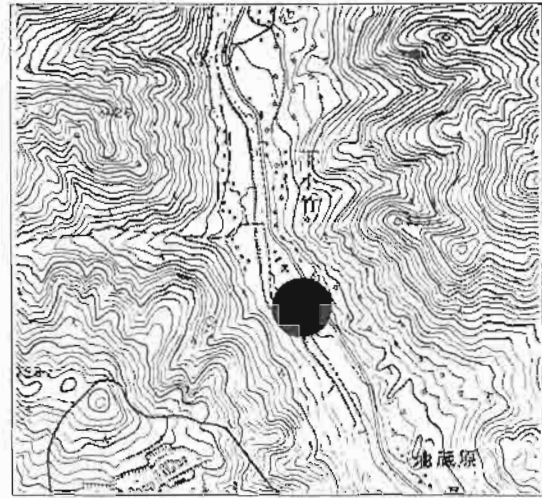


トレンチ完掘状況

## 9 <sup>こがはる</sup>古賀原地区

— 県営圃場整備事業（鈴連下小竹地区）に伴う試掘調査 —

所在地 大字小野字古賀原900-1 ほか  
調査期間 930713～930721  
開発面積 20,000㎡  
調査面積 100㎡  
調査費 161千円（国庫補助）  
遺跡の時代 —  
遺跡の種類 —  
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は盆地北部の通称小野谷と呼ばれる地域のほぼ中央にあたり、花月川の支流である小野川の河岸段丘上に立地している。この地域一帯は小野川の両岸に迫る標高400m前後の山々により、狭い谷が形成されている。小野川流域ではこれまでに考古学的な調査例はなく、遺跡の上流には中世の山城や、また下流では中世の和鏡が出土した遺跡が知られている程度ある。

調査では圃場整備事業予定地内にトレンチを設定し、遺構の確認を行った。調査では川に近い場所では現水田下に頭大以上の大きな河原石が多くみられ、また山際にいたっては砂層に礫が混じっているなど遺構は確認できず、また遺物の出土もみられなかった。

調査結果から、遺跡は小野川の氾濫源と考えられる。



試掘調査作業風景

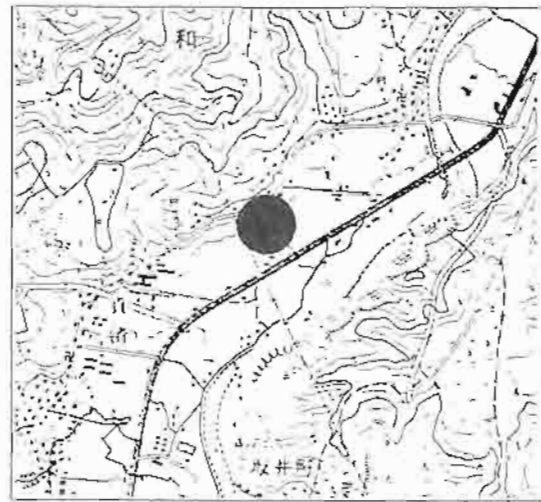


トレンチ完掘状況

み わきょうだ  
10 三和教田遺跡A地点

所在地 大字三和字教田2,468 ほか  
調査期間 930811  
開発面積 約4,957㎡  
調査面積 約100㎡  
調査費 84千円(原因者負担)  
遺跡の時代 ——  
遺跡の種類 ——  
担当者 行時志郎

一宅地造成に伴う試掘調査



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田市北部、花月川沿いに広がる標高110mの沖積地上に存在する。遺跡周辺ではこれまでに九州横断自動車道建設に伴う発掘調査でこの地域においてははじめて沖積地上で古墳時代前期の竪穴住居跡が発見されているほか、東部の葛原台地上においても弥生時代の上坑や古墳時代の竪穴住居跡などが確認されている。

調査は機械により南北方向に長いトレンチを2本設定して遺情の確認を行った。調査区は、当初は水田であったが、その後盛土を行っていたために確認面までは1m以上の掘り下げなければならなかった。現在の水田面を取り除くと黄灰色粘質土の地山面が現れ、この面を掘り込んで遺構が見つられていた。

調査の結果、西側トレンチでは弥生時代後期の甕などを含んだ溝状遺構、また東側トレンチからは多くの土坑群や柱穴が検出されたため、次年度に発掘調査を実施することとなった。



試掘調査作業風景



遺構検出状況

うら かの  
11 内河野遺跡

—個人住宅建設に伴う試掘調査—

所在地 大字内河野字茶ノ木淵521 ほか  
調査期間 930824  
開発面積 約8,000㎡  
調査面積 約500㎡  
調査費 84千円(原因者負担)  
遺跡の時代 —  
遺跡の種類 —  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地西部、谷状沖積地に沿って東西方向に長く延びる山陵から派生する尾根の鞍部とその間の谷間にある。付近には、長者原遺跡や川下遺跡、穴観音古墳といった著名な遺跡が分布し、とくに内河野川をこえた南部では縄文時代の遺物が多く採集された内河野遺跡が存在している。

調査は、尾根の鞍部や斜面、谷間などに機械を使って遺構検出作業を行った。谷間では1m程度で砂礫層となり、その下は人頭大の河原石が堆積していた。また、尾根や斜面でも20~30cmで地山の茶褐色ローム上が検出された。

当初は周辺で確認されている遺跡と関連性のある遺構が存在する可能性が高いと考えられたが、調査の結果、遺構・遺物は全く確認されなかった。



試掘調査作業風景

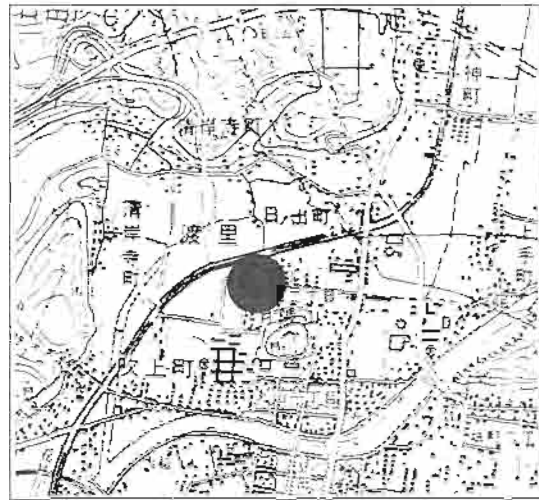


トレンチ完掘状況

ひ たしゅうりまる うち  
12 日田条里丸ノ内地区

—市営住宅建替工事に伴う試掘調査—

所在地 大字渡里字上瀬井手80-1ほか  
調査期間 930902  
開発面積 約500㎡  
調査面積 約100㎡  
調査費 74千円(国庫補助)  
遺跡の時代 —  
遺跡の種類 —  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は日田盆地北部、花月川より北に広く展開する標高87mの沖積地上に存在する。遺跡の南約200mの所には日田三丘の一つ月隈山があり、この山丘の崖面一帯にはこれを取り巻くように多数の横穴墓が築かれている。またこの山の頂上には中世末期に丸山城が築かれ、その後、江戸時代には西国筋郡代の陣屋がこの山の南側に築かれている。

調査は現在の市営住宅の間にある空地に機械を入れ遺構検出作業を行った。表土層を取り除くと約50cm下から砂層または拳大の礫層が広がっていた。これらをさらに掘り進むと、人頭大の河原石が見られるようになるとともに、地下水が湧き出てくるようになった。

当初この付近一帯は条里地割がよく残っており、また月隈山に近いこともあって遺構の存在する可能性が高いとおもわれた。しかし調査の結果、河川の氾濫原であったためか遺構・遺物ともに確認されなかった。



試掘調査作業風景

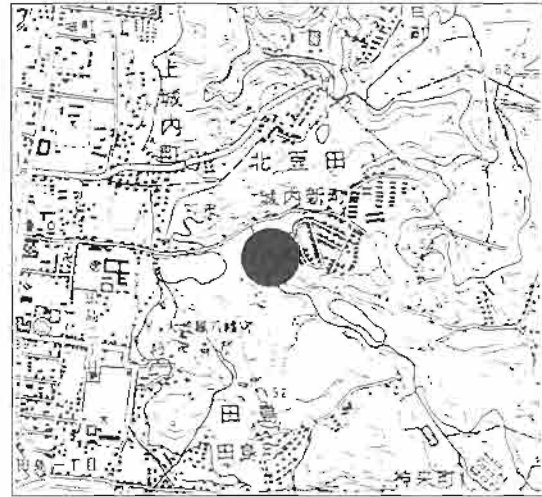


トレンチ完掘状況

あかさこ  
13 赤迫遺跡

—大原総合運動公園整備事業に伴う試掘調査—

所在地 大字北豆田字赤迫1717-1ほか  
調査期間 930916～930927  
開発面積 約90,000㎡  
調査面積 約1,500㎡  
調査費 332千円(国庫補助)  
遺跡の時代 古墳・中世  
遺跡の種類 集落・墓地  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部、中尾原台地南端付近より派生する舌状に延びる尾根上とその眼下に細長く形成された谷状沖積地一帯に存在している。

調査の結果、谷筋の中央に位置するA地点では奈良時代の竪穴住居跡のほか、土坑・溝状遺構や古墳・縄文時代の包含層などが確認された。またA地点より谷を東部にさかのぼったD・F地点でも中世の遺物を含む包含層や柱穴が確認された。また尾根筋では、東部のB地点や南部のE地点において尾根上最高所付近より石蓋土壇墓などが確認されたほか、B地点より南部に分岐して派生する小さな尾根上にあるC地点からも時期不明の柱穴が確認された。

このため市都市計画課と協議を行い、工事を急ぐ地点より順に今年度中に発掘調査を実施することとなった。



試掘調査作業風景



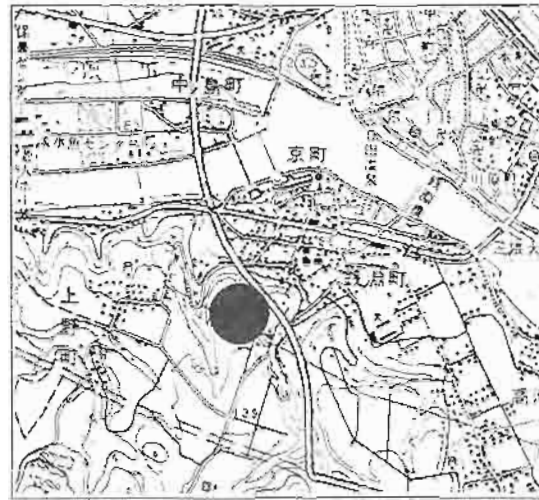
赤迫遺跡石棺材出土状況



うえのきりはたやま  
14 上野切畑山遺跡

所在地 大字上野字切畑山149 ほか  
調査期間 931124～931126  
開発面積 約500㎡  
調査面積 約15㎡  
調査費 81千円(国庫補助)  
遺跡の時代 弥生・奈良・中世  
遺跡の種類 集落  
担当者 行時志郎

—市道上野4号線道路建設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は日田盆地南部、上野原台地上に存在する。この台地上では現在水田耕作が盛んに行われているが、これは近年高瀬川上流より水路を引いてきたためであり、それまではほとんどが畑作が行われていたようである。

この台地南部では平成2年度より国道210号バイパス建設に伴う発掘調査が行われ、奈良時代の集落遺構が確認されるとともに「豊馬豊馬」と線刻された分銅型の石製品が出土し、駅との関連が注目されている。また、平成3年度に市道切畑美濃線道路改良工事に伴い行われた発掘調査では台地中央部にまで同時期の遺構が分布していることが確認されている。

調査は市道建設予定地の中央に水路が走っているため、それを挟んだ両側に1m×5mのトレンチを3ヶ所に設定し掘り下げた。その結果、トレンチ内からは時期不明の柱穴とともに奈良時代の土器や弥生時代の遺物が確認された。工事は現状を盛土し、砂利敷きの道路とすることから、遺構を損なわないため発掘調査は行わなかった。



試掘調査作業風景

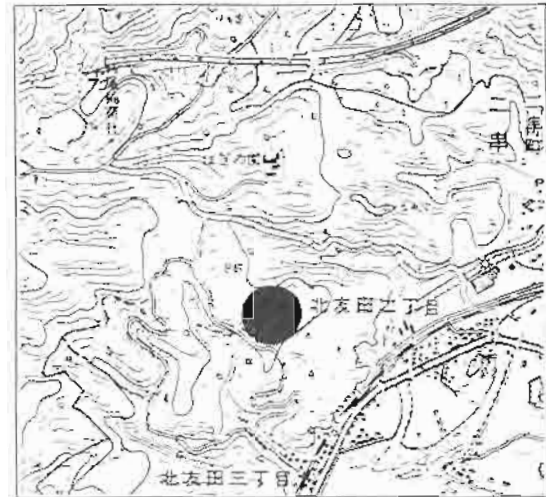


トレンチ完掘状況

あなほる  
15 穴原遺跡

—貯木場造成に伴う試掘調査—

所在地 大字友田字旭原2825-1ほか  
調査期間 931215～931224  
開発面積 約10,000㎡  
調査面積 140㎡  
調査費 145千円(原因者負担)  
遺跡の時代 縄文時代  
遺跡の種類 包含層  
担当者 土居和幸・森山敬一郎



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は盆地西部の標高約155mのやや起伏にとんだ台地上に位置している。遺跡のすぐ北側の丘陵上では昭和61年度に発掘調査が行われ、縄文時代早期の押型文土器を含む包含層が確認されている。また、遺跡の北側には旧石器・縄文時代の石器や土器が採集されている萩尾遺跡が存在している。

調査に先立つ分布調査では遺跡の周辺から黒耀石の石器などが採集され、さらに北側の調査地点で包含層が確認されていることから遺跡内には包含層などが存在すると想定された。

調査は予定地に13箇所のトレンチを設定し遺構や包含層の確認を行った。調査では表土の下は赤褐色のローム土で、なかには風化した1mを越す大きな礫が所々にみられた。調査の結果、黒耀石の石器の破片は出土するものの、遺構やまとまりのある石器や土器の分布は確認できず、工事の大半が簡易な舗装工事であることより発掘調査まではいたらなかった。



試掘調査作業風景

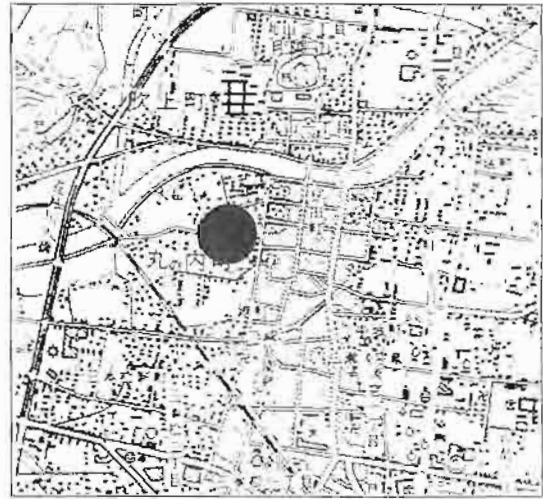


トレンチ完掘状況

ひ たじょうり いっちょうだ  
16 日田条里一丁田地区

所在地 大字南豆田字一丁田528 ほか  
調査期間 940110  
開発面積 6,093㎡  
調査面積 30㎡  
調査費 機械1日分 (原因者負担)  
遺跡の時代 ———  
遺跡の種類 ———  
担当者 土居和幸

—宅地造成に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は市街地の中心部より北側の花月川右岸の標高約87mに位置する。遺跡から花月川までは堤防を挟んで100mと近く、遺跡周辺では時期は不明であるが土器片が採集されている。

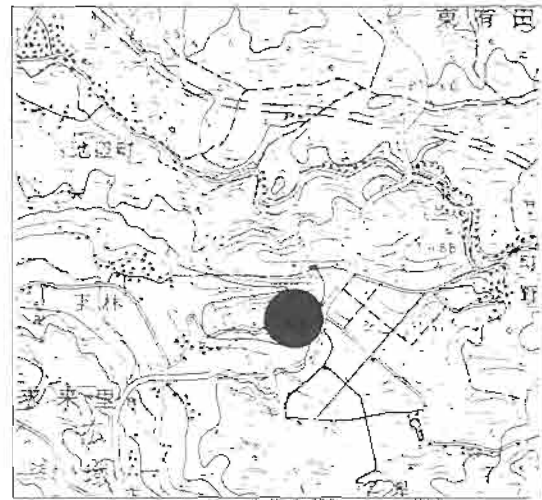
調査は機械を使って2本のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。

調査では埋土が約2mの厚さに盛られており、その下からは礫混じりの砂層が堆積していた。この砂層中には遺物がみられず、遺跡一帯が花月川の氾濫源と考えられる。

まちのぼる  
17 町野原遺跡

—広域農道建設に伴う試掘調査—

所在地 大字求米里字町野原  
調査期間 940307  
開発面積 約90,000㎡  
調査面積 15㎡  
調査費 75千円(国庫補助)  
遺跡の時代 旧石器・縄文・古墳時代  
遺跡の種類 散布地  
担当者 上居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部、通称町野原台地上に位置する。これまでにこの遺跡からは旧石器・縄文時代の石器や古墳時代の土師器・須恵器などが採集されており、周知の遺跡として知られていた。過去にこの遺跡では2回の試掘調査が行われたが、遺跡内で実施された圃場整備により遺跡がかなり削平等を受けているためか、遺構の確認までにはいたっていなかった。

今回の調査地点は台地東端の舌状地形をなす場所で、調査地点のすぐ東側には古墳が1基存在することから、遺構の存在が十分考えられた。

調査では機械を使って遺構の確認を行った。その結果、現在の表土下は赤褐色のローム層で遺構としては近世以降の時期と思われる溝1状が検出されたほかは、遺物の出土もなかった。これまでの調査結果と同様に、今回の調査地点も圃場整備により削平が著しいと考えられる。



試掘調査風景

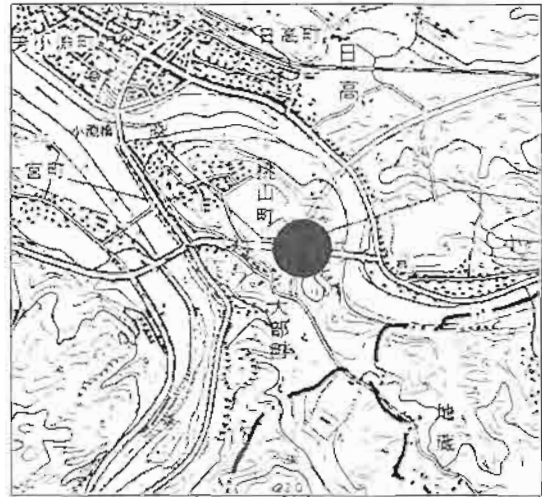


試掘調査風景

まきばる  
18 牧原遺跡

所在地 大字日高字牧原2722-1ほか  
調査期間 940315～940322  
開発面積 1,900㎡  
調査面積 150㎡  
調査費 252千円(国庫補助)  
遺跡の時代 古墳時代  
遺跡の種類 集落  
担当者 土居和幸・森山敬一郎

—広域農道建設に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

調査の概要

遺跡は日田盆地東部の標高約150mの桃山と呼ばれる丘陵頂部に位置する。遺跡周辺には縄文時代の分布地や古墳の存在が古くから知られていた。特に、今回の調査対象地域のすぐ脇には牧原千人塚古墳が存在することから、予定地内には遺構の存在が十分考えられた。

調査は農道予定地にトレンチを設定し、遺構の確認を行った。その結果、古墳付近の平坦な地形の場所では溝が確認され、山腹斜面の比較的緩やかな場所では竪穴住居の一部を確認した。検出した竪穴住居の表面には完形に近い土師器が出土している。

こうした試掘調査結果を踏まえ保存の協議を行い、トンネル工事の対象外となる場所については緊急の発掘調査を行うこととした。また古墳の周溝が工事にかかることが予想されたので、合わせて古墳の確認調査を行い、その結果をもって古墳についての対応を検討することとした。



試掘調査作業風景

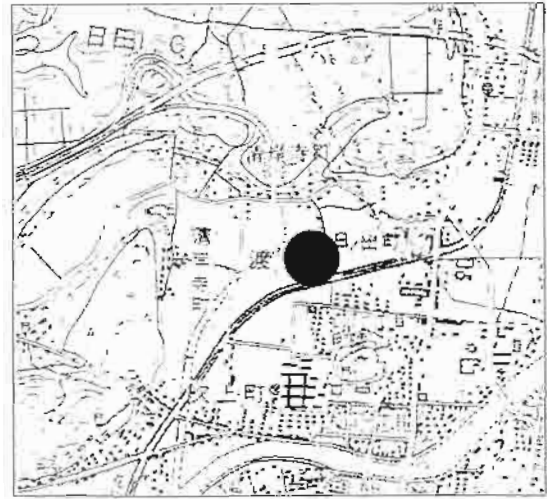


トレンチ完掘状況

○ たじょうりかみせいで  
19 日田条里上瀬井手地区

—店舗建設に伴う試掘調査—

所在地 大字渡里字上瀬井手65ほか  
調査期間 940318  
開発面積 16,832㎡  
調査面積 110㎡  
調査費 84千円(原因者負担)  
遺跡の時代 古代  
遺跡の種類 条里  
担当者 土居和幸



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は市街地北側の花月川左岸の沖積地、標高約84mに位置する。遺跡の北側台地上には草場第2遺跡や小迫辻原遺跡、西側の台地上には吹上遺跡、南側には月隈横穴墓群などが存在する。遺跡の周辺はこれまでに九州横断自動車道日田インターチェンジやバイパス建設、市道建設に先立つ試掘調査が行われており、遺物の出土はみられるものの、遺構の存在は確認されていない。

調査は予定地に機械を使って5本のトレンチを設定し、条里遺構を中心に掘り下げを行った。調査では条里遺構の畦畔などの確認も考え、現在の水田の境界を中心に長いトレンチとした。トレンチの掘り下げでは、場所によっては現表土下に小礫混じりの砂層の堆積がみられたり、あるいは3枚の水田が確認された。特に3枚の水田については遺物の出土がなかったため時期ははっきりしないが、水田下は礫を含む砂層であった。



試掘調査風景写真

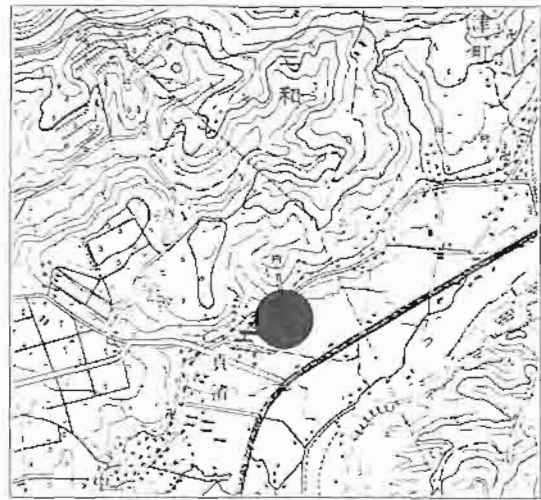


トレンチ完掘状況

## 20 <sup>みわきょうだ</sup>三和教田遺跡B地点

所在地 大字三和字鮎町959 ほか  
調査期間 940330  
開発面積 約6,539㎡  
調査面積 約40㎡  
調査費 67千円(原因者負担)  
遺跡の時代 弥生・古墳  
遺跡の種類 集落  
担当者 行時志郎

—宅地造成に伴う試掘調査—



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

三和教田遺跡B地点はA地点より南西約500mの位置にあり、標高112mのやや微高地上に存在している。現在は花月川上流から水路を引いているため水田となっているが、本来は西部の台地から下った斜面の側にあり、沖積地の中でも全体に高い位置にあたるため、水田には不適切な土地であったようである。

調査は機械を使って合計4本のトレンチを入れ、遺構検出作業を実施した。水田の表土を取り除くとすぐに茶褐色のローム面が現れた。遺構はこのローム面を掘り込んで造られており4本のトレンチのうち3本から弥生時代や古墳時代の竪穴住居跡や柱穴などが確認された。

この調査結果を踏まえて開発事業者と協議を行った結果、道路部分は発掘調査、建物の部分については遺跡全体の広がりを確認するための調査を次年度に実施することになった。



試掘調査風景写真



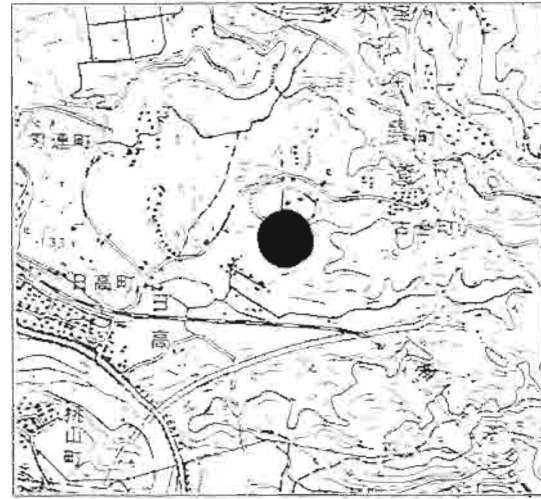
遺構検出状況写真

## 21 古金遺跡

こがね

—宅地造成に伴う試掘調査—

所在地 大字日高字古金1783ほか  
調査期間 940331  
開発面積 20,306㎡  
調査面積 260㎡  
調査費 13千円(原因者負担)  
遺跡の時代 ———  
遺跡の種類 ———  
担当者 行時志郎



遺跡の位置図(1/25,000)

### 調査の概要

遺跡は日田盆地東部、玖珠川左岸に開けた小規模な扇状地に向かって舌状に張り出した標高142mを測る丘陵上にある。丘陵の頂上は北部より続く比較的平坦な尾根筋になっている。遺跡周辺には同じ尾根筋上に狐塚遺跡が存在するほか、また尾根西側の開析谷を挟んで東寺原遺跡、穴井ヶ迫横穴墓群などが分布する。

調査は尾根上については機械で、斜面については手作業で1m×5mのトレンチを2ヶ所に設定し遺構検出作業を行った。尾根上の表土は浅く、30cm程度掘り下げただけで地山の黄褐色ローム層があらわれた。

当初周囲に多くの遺跡が分布することや立地的に見晴らしのきく尾根上だったので遺跡の存在する可能性が高いと考えられたが、調査の結果遺構・遺物は確認されなかった。



## II 平成5年度埋蔵文化財普及・啓発事業

### 1) シンポジウムの開催

今年度は、大分県史跡に指定されている小迫辻原遺跡をめぐって2つのシンポジウムが開催された。一つは市教委主催による「古代史シンポジウム」であり、もう一つは大分県文化財保存協議会が主催（市教委後援）で行なった「'93おおいた文化財フォーラム・日田」である。この2つのシンポジウムは、これまで10年間におよぶ発掘調査が行われた小迫辻原遺跡にスポットをあてたもので、小迫辻原遺跡で発見された古墳時代前期の方形環濠居館を中心に論議が行われた。概要は次のとおりである。

#### 「第2回大分県生涯学習フェスティバル事業 "古代史シンポジウム"」

時を越えて甍れ豪族の館ー小迫辻原遺跡は今、何を語りかけるかー

主催：日田市・日田市教育委員会／期日：平成5年10月2日（土）

場所：日田市中心公民館（文化センター）ホール／参加者：約250人

内容：●基調講話「小迫辻原遺跡とその時代」別府大学賀川光夫教授

●パネルディスカッション「小迫辻原遺跡とまちづくり」

【コーディネーター】後藤宗俊（別府大学教授）

【パネラー】賀川光夫（別府大学教授）／田辺員人（東京家政学院大学教授）／高倉洋彰（西南学院大学教授）／原田勝宏（日田考古学同好会会長）

#### 「'93おおいた文化財フォーラム・日田ー小迫辻原遺跡と日田の歴史を学ぶー」

主催：大分県文化財保存協議会／協賛：日田考古学同好会

後援：日田市教育委員会・天領日田を見直す会・日田町人文化を称える会

期日：平成5年9月11日（土）～12日（日）

場所：小松軒・日田信用金庫本店ホール／参加者：約200人

内容：●遺跡見学会（上野鏡坂公園・穴観音古墳・ガランドヤ古墳・小迫辻原遺跡ほか）

●記念講演「豪族居館の出現と展開」滋賀大学小笠原好彦教授

●基調講演「古墳時代首長の原像／小迫辻原遺跡の語るもの」別府大学後藤宗俊教授

●シンポジウム「小迫辻原遺跡と日田の歴史を学ぶ」

【コーディネーター】村上久和（考古学研究会全国委員）

高見乾司（大分県文化財保存協議会幹事）

【パネラー】小笠原好彦（滋賀大学教授）／後藤宗俊（別府大学教授）／橋本博文（早稲田大学校地埋蔵文化財調査室）／小野孝（日田市立博物館協議会会長）／二宮淳一郎（大分県文化財保存協議会会長）／土居和幸（日田市立博物館学芸員）



古代史シンポジウムの風景



古代史シンポジウムの風景



古代史シンポジウムの風景

## 2) 特別展の開催

平成5年度に行った埋蔵文化財の普及に関する展示会として「小迫辻原遺跡発掘調査速報展」を開催した。この展示会は日田市で開催された「第2回大分県生涯学習フェスティバル協賛事業」の一環として催したものである。

小迫辻原遺跡は大分県教育委員会が昭和59年度から昭和62年度まで、日田市教育委員会が昭和62年度から発掘調査を実施し、その間の昭和63年には古墳時代前期初めの方形環濠居館が発見され話題となった遺跡である。その後の継続した調査では同時期の環濠や古代の建物群、中世の館跡なども発掘され、市民の関心も高くなっていた。

展示ではこれまでの発掘調査で出土した各時代の遺物を中心に、写真パネルや解説パネルをまじえて、時代を追って遺跡や遺物の内容が理解できるよう努めた。また、草場第2遺跡などの関連資料も合わせて展示した。

展示会の概要は次のとおり。

主 催／日田市立博物館

協 力／大分県教育委員会

期 間／平成5年9月1日～10月31日

場 所／日田市立博物館1階展示室

入館者／延べ1,050人

展示品／●縄文時代

押型文土器、石鏃、打製石斧など

●弥生時代前期～後期

竪穴住居や貯蔵穴出土の弥生土器（甗・壺・高坏など）、石器（石庖丁・石斧など）

●弥生時代後期～古墳時代前期

環濠出土の上師器（甗・壺・高坏・碗・器台など）、環濠居館出土の上師器（甗・壺・高坏など）、竪穴住居出土の鉄器（鉄鏃・鉄鎌など）や丸玉

●奈良時代

掘立柱建物出土の須恵器や上師器、土壙出土の転用碗、竪穴出土の「大領？」銘の墨書土器・鉄製紡錘車・鉄鎌など

●鎌倉時代～室町時代

館出土の青磁・白磁・土師器、柱穴出土の小札等

●草場第2遺跡出土の鉄器（鉄剣・鉄鏃等）や玉類



特別展の開催風景



特別展の開催風景



特別展の開催風景

### 3) 指定文化財の紹介

今年度は新たにガランドヤ古墳群が国史跡の指定を受けた。このガランドヤ古墳群は3基で構成され、1・2号墳は古くより装飾壁画古墳として知られてきた。昭和39年2月21日には1・2号墳が大分県史跡の指定を受け、昭和59・60年には古墳の確認のための発掘調査が行われ多くの遺物の出土と新たな壁画の発見があった。今回のガランドヤ古墳の指定により市内に残る法恩寺山古墳、穴親音古墳など装飾古墳全てが国史跡となった。ガランドヤ古墳の指定は1・2号墳が対象となっていて、内容は次のとおりである。

(指定の名称) ガランドヤ古墳

(史跡の所在地) 1号墳/日田市大字石井字尾園1134-3番地、1136-1番地(の一部)、1137-2番地(の一部)、1138-2番地、1138-3番地、1139番地

2号墳/日田市大字石井字西ノ園1180-3番地(の一部)、1180-4番地、1186-1番地(の一部)、1186-2番地、1187番地、1188-1番地

(指定面積) 2,997.64㎡

1号墳/1,255.84㎡

2号墳/1,741.80㎡

(官報告示) 平成5年10月13日付け文部省告示第122号

(史跡の概要) ガランドヤ古墳は大分県を代表する装飾壁画古墳の一つで、1号墳の奥壁には赤と青の顔料を用いて、人物・馬・鳥・船・円文など多種類の図柄が描かれている。2号墳は玄室の壁全面に赤の顔料が塗られており、とくに奥壁には赤地の上に緑の顔料で山形連続文・同心円文などが描かれている。こうした2基の古墳は、昭和59・60年に市教育委員会による発掘調査が行われ、須恵器や土師器などの土器をはじめとして、馬具や装身具さらには鉄刀、鉄鏃などの武器約900点が出土した。さらに、壁画の綿密な測量や赤外線を使っての調査により2号墳から新たに馬上で弓を射る人物画が発見された。近接する2基の古墳に装飾壁画が施され、多くの遺物が出土する装飾古墳は全国的にも珍しく、また1号墳に描かれた図柄の多様さや、両古墳の装飾技法の違いなど特色ある古墳として注目される。



ガランドヤ1号墳



ガランドヤ2号墳



ガランドヤ2号墳の奥壁画

4) 広報活動



徳瀬遺跡の発掘調査に関する記事  
西日本新聞 / 1月21日掲載

**近畿と関連ある「集団」跡か**  
低地から良質土器発掘  
徳瀬遺跡の古代史解明の資料に

徳瀬遺跡の発掘調査は、近畿地方と関連がある「集団」の跡を明らかにする重要な資料を提供している。低地から良質土器が発掘されたことは、古代史解明の重要な手がかりとなる。この遺跡は、古くから人々の生活の中心地となっており、その歴史を明らかにすることは、地域の文化遺産を保護し、後世に伝える重要な役割を果たしている。

日田市の小迫辻原遺跡

**10年がかりの調査終了**  
**環濠ほぼ全容解明**  
今秋には国史跡申請へ


環濠遺跡の発掘調査は、10年がかりの調査を終了し、環濠のほぼ全容が解明された。今秋には国史跡申請へ向けて準備を進めている。この遺跡は、古くから人々の生活の中心地となっており、その歴史を明らかにすることは、地域の文化遺産を保護し、後世に伝える重要な役割を果たしている。



環濠遺跡の発掘調査に関する記事  
西日本新聞 / 1月29日掲載

**整備計画が焦点に**  
ガランドヤ古墳 国史跡指定決まる

ガランドヤ古墳の国史跡指定が決まり、整備計画が焦点となっている。この古墳は、古くから人々の生活の中心地となっており、その歴史を明らかにすることは、地域の文化遺産を保護し、後世に伝える重要な役割を果たしている。



国史跡となったガランドヤ古墳。現在は保護のためにビニールシートで覆われている。

ガランドヤ古墳の国史跡に関する記事  
西日本新聞 / 11月23日掲載

# 日田市の小迫辻原遺跡 出土品の展示始まる



小迫辻原遺跡発掘調査報告展（日田市立博物館）

日田市小迫（約2500年前）の遺跡発掘調査報告展の会場にある小迫辻原遺跡「展」が1日、日田市立博物館の出土品を展示する「小」展示が始まった。

小迫辻原遺跡の展示会に関する記事  
大分合同新聞／9月2日掲載

会場には日本書紀の「小迫」の遺跡の歴史、昭和五十九年から発掘調査した三千年前の遺跡の歴史が紹介されている。出土品は、土器、縄文時代の土器、土器の交流を平手町の青銅器、四角四十五角を展示している。

会場には日本書紀の「小迫」の遺跡の歴史、昭和五十九年から発掘調査した三千年前の遺跡の歴史が紹介されている。出土品は、土器、縄文時代の土器、土器の交流を平手町の青銅器、四角四十五角を展示している。

会場には日本書紀の「小迫」の遺跡の歴史、昭和五十九年から発掘調査した三千年前の遺跡の歴史が紹介されている。出土品は、土器、縄文時代の土器、土器の交流を平手町の青銅器、四角四十五角を展示している。



小迫辻原遺跡をめぐっての夜なべ談議

## 「93おおいた文化財フォーラムひた」開く 歴史活用して町づくり

### 遺跡見学や夜なべ談議 120人参加

「93おおいた文化財フォーラムひた」が、9月1日（土）午後7時から、日田市立博物館で開かれた。この日は、小迫辻原遺跡の見学や夜なべ談議が行われ、約120人が参加した。

見学の後は、夜なべ談議が行われ、小迫辻原遺跡の歴史や出土品について、専門家の講話があった。また、出土品の展示も好評だった。

このフォーラムは、日田市の文化財を活用し、まちづくりを推進することを目的として開催された。今後も、このようなイベントを開催していく予定だ。

小迫辻原遺跡のフォーラムに関する記事  
西日本新聞／9月12日掲載

# 歴史資料館や史跡公園を 「小迫辻原遺跡」でシンポ



古代史シンポジウムのパネリスト

日田市立博物館（日田市）で9月10日（土）午後7時から、小迫辻原遺跡をテーマにしたシンポジウムが開かれた。この日は、小迫辻原遺跡の歴史や出土品について、専門家の講話があった。また、出土品の展示も好評だった。

このシンポジウムは、日田市の文化財を活用し、まちづくりを推進することを目的として開催された。今後も、このようなイベントを開催していく予定だ。

小迫辻原遺跡をめぐっての夜なべ談議は、日田市の文化財を活用し、まちづくりを推進することを目的として開催された。今後も、このようなイベントを開催していく予定だ。

このシンポジウムは、日田市の文化財を活用し、まちづくりを推進することを目的として開催された。今後も、このようなイベントを開催していく予定だ。

小迫辻原遺跡のシンポジウムに関する記事 大分合同新聞／10月4日掲載



## 5) 刊行物の紹介

### ①「惣田遺跡」発掘調査報告書

この報告書は平成3・4年度に行われた市道平原捨ノ平線道路改良工事に伴い実施された惣田遺跡の発掘調査の記録をまとめたもの。発掘された弥生時代の溝や古代の竪穴住居などが報告され、付編として惣田塚古墳や遺跡周辺の文化財がまとめられている。体裁B5判。本文55P、写真図版6P。



### ②「居館の里 小迫辻原遺跡」概要パンフレット

小迫辻原遺跡でのこれまでの発掘調査成果を、弥生時代終りから古墳時代初めの環濠や居館を中心に、古代の建物群、中世の屋敷跡などをカラー写真や図を使ってわかりやすく解説している。体裁B5判。本文21P（写真・図版込み）。再版。



### ③「平成4年度（1992年度）日田市埋蔵文化財年報」

平成4年度に市教育委員会が市内で行なった15遺跡の発掘調査や試掘調査の概要を中心にまとめたもので、遺跡の現地説明会や広報活動などその年の埋蔵文化財の普及・啓発事業の内容も合わせて掲載している。体裁A4判。本文45P（写真・図版込み）。



### Ⅲ 平成5年度埋蔵文化財関係寄贈図書一覧

番号	書名	寄贈者	刊行年
1	東京都 遺跡調査室年報V	立正大学文学部考古学研究室	1990
2	遺跡調査室年報VI	"	1994
3	神奈川県 平成4年度企画展「西相模の古墳」	秦野市立桜土手古墳展示館	1992
4	京都府 京都府埋蔵文化財情報第47号～第50号	京都府埋蔵文化財調査研究センター	1993～94
5	図録「紫金山古墳と石山古墳」京都大学文学部博物館		
6	大阪府 軽部池西遺跡Ⅲ (財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第70輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会	1991
7	吉井遺跡 (財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第70輯	"	1992
8	平成5年夏期企画展 第8回泉州の遺跡「須恵器の始まりをさぐる」	"	1993
9	ひらかた文化財だより第15号	財団法人枚方市文化財研究調査会	1993
10	豊中市埋蔵文化財発掘調査概要1992年度	豊中市教育委員会	1993
11	雪野山古墳Ⅲ	大阪大学文学部考古学研究室	1993
12	奈良県 四十周年の春秋 40周年記念図録	奈良国立文化財研究所	1993
13	佐味田宝塚古墳(範囲確認調査報告) 河合町文化財調査報告第1集	河合町教育委員会	1986
14	史跡乙女山古墳(範囲確認調査報告) 河合町文化財調査報告第2集	"	1988
15	長林寺(範囲確認調査報告) 河合町文化財調査報告第3集	"	1990
16	河合町遺跡詳細分布調査報告 河合町文化財調査報告第4集	"	1990
17	高山3号墳発掘調査報告 河合町文化財調査報告第5集	"	1992
18	1991年度埋蔵文化財発掘調査報告 河合町文化財調査報告第6集	"	1992
19	穴關 河合町文化財調査報告第7集	"	1992
20	1992年度埋蔵文化財発掘調査報告 河合町文化財調査報告第8集	"	1993
21	馬見丘陵の古墳-佐味田宝塚・新山古墳とその周辺	"	
22	考古学における計量分析(Ⅱ)-計量考古学への道-	帝塚山考古学研究所	1992
23	第6回考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	"	1993
24	兵庫県 淡河萩原遺跡発掘調査報告書(1)	淡神文化財協会	1992
25	淡河萩原遺跡発掘調査報告書(2)	"	1992
26	淡河中山遺跡Ⅰ	"	1993
27	のじぎく文化財だより第13～24号	のじぎく文化財保護研究財団	1993～94
28	広島県 広島県立歴史博物館ニュース 第17号	広島県立歴史博物館	1994
29	山口県 山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅺ	山口大学埋蔵文化財資料館	1993
30	徳島県 阿波国府跡第10次調査概要	徳島市教育委員会	1992
31	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要2	"	1992
32	徳島市埋蔵文化財発掘調査概要3	"	1993
33	愛媛県 樽味遺跡Ⅱ 愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅳ	愛媛大学埋蔵文化財調査室	1993

番号	書名	寄贈者	刊行年
<b>福岡県</b>			
34	福岡市埋蔵文化財センター年報第12号	福岡市埋蔵文化財センター	1993
35	終末期古墳の世界	北九州市立考古博物館	1993
36	宗像市文化財講演会資料『弥生時代の墓制を考える』	宗像市教育委員会	1993
37	中世の海人と東アジア	#	1994
38	北松尾口遺跡Ⅲ・Ⅳ地点 小都市文化財調査報告書第77集	小都市埋蔵文化財調査センター	1992
39	津古片曾葉遺跡 小都市文化財調査報告書第78集	#	1992
40	苜又地区遺跡群 小都市文化財調査報告書第80集	#	1992
41	津古内畑遺跡Ⅵ 小都市文化財調査報告書第81集	#	1992
42	太宰府天満宮参道 太宰府市の文化財第19集	太宰府市教育委員会	1993
43	太宰府・佐野地区遺跡群Ⅲ 太宰府市の文化財第20集	#	1993
44	太宰府・佐野地区遺跡群Ⅳ 太宰府市の文化財第21集	#	1993
45	明星寺南地区遺跡群発掘調査報告書 飯塚市文化財調査報告書第17集	飯塚市教育委員会	1993
46	安武地区遺跡群Ⅲ 久留米市文化財調査報告書第64集	久留米市教育委員会	1990
47	安武地区遺跡群Ⅳ 久留米市文化財調査報告書第65集	#	1990
48	安武地区遺跡群Ⅶ 久留米市文化財調査報告書第82集	#	1993
49	八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報2 八女市文化財調査報告書第19集	八女市教育委員会	1990
50	赤氏遺跡 八女市文化財調査報告書第20集	#	1991
51	上柳遺跡 八女市文化財調査報告書第21集	#	1991
52	三河小学校庭遺跡 八女市文化財調査報告書第22集	#	1992
53	八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報3 八女市文化財調査報告書第23集	#	1992
54	釘崎古墳群 八女市文化財調査報告書第24集	#	1992
55	東館遺跡 八女市文化財調査報告書第25集	#	1993
56	熊野遺跡 八女市文化財調査報告書第26集	#	1993
57	室岡工業団地内遺跡Ⅰ 八女市文化財調査報告書第27集	#	1993
58	岡山公園古墳 八女市文化財調査報告書第28集	#	1993
59	八女市南部地区県営圃場整備事業地内埋蔵文化財調査概報4 八女市文化財調査報告書第29集	#	1993
60	仲遺跡群 那珂川町文化財調査報告書第32集	那珂川町教育委員会	1993
61	本郷野開遺跡 大刀洗町文化財調査報告書第4集	大刀洗町教育委員会	1993
62	下高橋上野遺跡 大刀洗町文化財調査報告書第5集	#	1993
63	穂波地区遺跡群 第5集 穂波町文化財調査報告書第8集	穂波町教育委員会	1993
64	苗代谷遺跡 水巻町文化財調査報告書第1集	水巻町教育委員会	1993
65	九州文化史研究所紀要第38号比較考古学部門関係抜刷集	九州大学文学部 九州文化史研究施設 比較考古学部門	1993
<b>佐賀県</b>			
66	佐賀県文化財写真集『ふるさとの美と心』	佐賀県教育委員会	1990
67	朝日北遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(15)	#	1992
68	増田遺跡群Ⅰ 佐賀市文化財調査報告書第43集	佐賀市教育委員会	
69	宿野遺跡 佐賀市文化財調査報告書第44集	#	1993
70	篠木野遺跡・琵琶原遺跡 佐賀市文化財調査報告書第45集	#	1993
71	観音遺跡 佐賀市文化財調査報告書第46集	#	1993
72	千布二本黒木遺跡 佐賀市文化財調査報告書第47集	#	1993
73	大野原遺跡 佐賀市文化財調査報告書第48集	#	
74	牟田寄遺跡 佐賀市文化財調査報告書第49集	#	1990
75	瓶屋窯跡・瓶屋遺跡・餅田窯跡 伊万里市文化財調査報告書第27集	伊万里市教育委員会	1989
76	川内野遺跡 平山遺跡 伊万里市文化財調査報告書第31集	#	1990
77	本村籠遺跡・於保三本松遺跡 大和町文化財調査報告書第10集	大和町教育委員会	1990

番号	書名	寄贈者	刊行年
78	肥前国分寺跡－第4次発掘調査－ 大和町文化財調査報告書第11集	"	1990
79	東山田一本杉、西山田天神、西山田二本松、西山田三本松遺跡 大和町文化財調査報告書第13集	"	1991
80	小川遺跡 大和町文化財調査報告書第14集	"	1991
81	平成2年度大和町内遺跡確認調査 大和町文化財調査報告書第16集	"	1992
82	尼寺一本松遺跡－第2次調査－ 大和町文化財調査報告書第17集	"	1992
83	築山経塚－調査概要報告書－ 大和町文化財調査報告書第18集	"	1992
84	小物成窯・平床窯・掛の谷窯 町内古窯跡群詳細分布調査報告書第6集	有田町教育委員会	1993
<b>長崎県</b>			
85	銅座町遺跡 十八銀行本店敷地埋蔵文化財発掘調査報告書	長崎市埋蔵文化財調査協議会	1993
86	栄町遺跡 ビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	"	1993
<b>熊本県</b>			
87	神水遺跡Ⅱ－神水遺跡第3次調査区発掘調査報告書－	熊本市教育委員会	1993
88	大江遺跡群Ⅱ－大江遺跡群第3次調査区発掘調査報告書－	"	1993
89	舞原西遺跡－フレッシュチェーン株式会社熊本営業所建設に伴う発掘調査－	城南町教育委員会	1993
90	熊本県立装飾古墳館研究紀要 第1集	熊本県立装飾古墳館	1994
<b>大分県</b>			
91	遺跡が語る大分の歴史－大分県の埋蔵文化財	大分県教育委員会	1992
92	大分県遺跡地図	"	1993
93	大分県埋蔵文化財年報1	"	1993
94	上ノ原横穴群Ⅰ・Ⅱ・写真図版編	"	1989～91
95	成田尾遺跡 今村遺跡 馬場尾遺跡 大分空港道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 大分県文化財調査報告書第88輯	"	1992
96	下郡遺跡群 大分市下部地区土地区画整理事業に伴う発掘調査概報(3)	大分市教育委員会	1992
97	大分市埋蔵文化財調査年報3	"	1992
98	国指定史跡 古宮古墳－史跡整備に伴う発掘調査概報－	"	1993
99	大分市の文化財 第27集	"	1993
100	ボウガキ遺跡	中津市教育委員会	1992
101	1991年度中津地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ) 中津市文化財調査報告第11集	"	1992
102	1992年度中津地区遺跡群発掘調査概報Ⅴ) 中津市文化財調査報告第12集	"	1993
103	史跡岡城跡保存修理報告書Ⅶ	竹田市教育委員会	1993
104	岡藩主おたまや公園整備事業報告書	"	1993
105	竹田地区南部遺跡群Ⅳ	"	1993
106	佐伯地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ －榑牟乳城址と関連遺跡発掘調査概報－	"	1993
107	津久見市の文化財	津久見市教育委員会	1993
108	大隅遺跡 国東町文化財調査報告書第9集	国東町教育委員会	1992
109	浜崎寺山遺跡 国東町文化財調査報告書第10集	"	1993
110	国東地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ	"	1992
111	白岩遺跡	玖珠町教育委員会	1993
112	鷹巣横穴墓群	"	1993
113	恵良城跡 宅地造成工事に伴う発掘調査概報	九重町教育委員会	1993
114	朝地地区遺跡群発掘調査概報Ⅶ	朝地町教育委員会	1993
115	大徳院遺跡発掘調査報告書	清川村教育委員会	1993
116	館報第31・32号	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1993

番号	書名	寄贈者	刊行年
117	秋季企画展図録「神々の姿」	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1993
118	六郷山寺院遺構確認調査報告書Ⅰ 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第12集	"	1993
<b>宮崎県</b>			
119	崩先地下式横穴群	宮崎県教育委員会	1993
120	吾平原第2遺跡・宮ノ前第2遺跡・城ノ平遺跡 -国道218号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書-	"	1993
121	上山ノ丸遺跡・北ノ迫遺跡・小丸遺跡 -県道宮崎～北郷線地方道特別改良1種工事に伴う発掘調査報告書-	"	1993
122	平成4年度市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 延岡市文化財調査報告第10集	延岡市教育委員会	1993
123	長江浦田遺跡群役所田・小路ノ下遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第11集	えびの市教育委員会	1993
124	原田・上江遺跡群・蔵元・法光寺・中満遺跡 えびの市埋蔵文化財調査報告書第12集	"	1993
125	南久保山小堀町遺跡 北方町文化財報告書第5集	北方町教育委員会	
126	速日峰地区遺跡Ⅲ 北方町文化財報告書第6集	"	1993
127	城ヶ尾遺跡 高城町文化財調査報告書第1集	高城町教育委員会	1989
128	上原遺跡 高城町文化財調査報告書第2集	"	1993
129	高城町郷土資料館だより	"	1993
130	高岡町内遺跡発掘調査報告書 高岡町埋蔵文化財調査報告書第3集	高岡町教育委員会	1993
131	川原木寄遺跡 木城町文化財調査報告書第3集	木城町教育委員会	1993
132	宮崎の遺跡 1982～1991 埋蔵文化財センター開設10周年記念企画展記録集	宮崎県総合博物館	1993
<b>鹿児島県</b>			
133	埋文だより 第3号	鹿児島県立埋蔵文化財センター	1993
134	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報Ⅶ	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	1993

平成5年度(1993年度)  
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成7年3月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877 大分県日田市田島2-6-1

TEL 0973-23-3111

印刷 尾花印刷有限会社